

■教育の目標

芸術的感性と広い視野をもち、柔軟な思考力、確かな技術を身につけ、自分の未来像を設計できる個性豊かな人材や実社会での応用力を持った人材の育成を教育目標とします。

■学科の特長

幅広い専門科目と実技科目を置き、現代の多様化する美術、デザインの表現領域を多角的にとらえたカリキュラムとなっています。本人の体験を通して専門分野を絞り込むことができるように選択制を取り入れ、1年次前期は専門領域を限定しないことにより学生はさまざまな表現領域を体験することができます。この事により、後期以降各自が選択する専門領域において、前期に選択した実技経験を活かし個々の専門領域を見極め、より高度な知識・技術を集中的に習得することができます。

そして、卒業後は専攻科への進学や、芸術学部3年次への編入学の道も開かれています。また、芸術学部・短期大学部の間には単位互換協定があり、一部の授業は相互に履修することが可能になっています。

■カリキュラムの概要

1年次前期の実技科目は、13種類の科目から4科目を選択。中でも、デッサン力とパソコンスキルの基本を習得する科目として、共通A（観察描写）、共通B（デジタルデザイン）を推奨しています。個々が志す領域に直結した授業を選ぶことはもとより、あえて異なる領域の授業を履修することで自己表現の方法に幅を持たせることが可能となり、自分の個性を見つけ出す第一歩となります。

後期からは、前期で体験した授業を基に、美術コース・デザインコース（グラフィック・メディア・テキスタイル・プロダクト）の中から専門領域・分野を選択し、より専門性の高い知識や技術を集中的に習得し、感性を磨いていきます。2年次後期からの卒業制作では、それまで培った知識や技術や表現力をもとに、自己の表現の可能性を探る大切な時間となります。それは2年間の集大成であるとともに、社会に出て活躍するための出発点でもあります。

<共通科目一覧>

共通科目 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

短期大学部共通科目においては、以下を学位授与の条件とします。

【知識・理解】(教養・多様性の理解)

多様性を尊重する社会への理解および課題意識を醸成するために必要な学問的・実験的な知識・理論を修得し、幅広い教養を身に付けている。

【関心・意欲・態度】(実践力、マネジメント力)

芸術の理論と技法を活用し、地域や社会の諸問題に主体的に取り組む実践力や他者と協働し解決する力、生涯を通じて学ぶ姿勢とマネジメント力を身に付けている。

【思考・判断】(創造的思考力)

芸術分野における基礎的知識を修得し、それらを学術・創作研究として創造的に発展させる思考力・判断力を身に付けている。

【技能・表現】(表現・コミュニケーション力)

グローバル社会において自身の考えを的確に表現できる語学力や異文化に対する理解力を高め、総合的なコミュニケーションを身に付けている。

ファンデーション科目

「女子美基礎講座」「女子美の教養」を柱として開設しています。「女子美基礎講座」では、本学が輩出してきた過去から現在に至るまでに活躍する卒業生（および在学学生）について触れ、学生の未来へと繋げていくことで、本学の理念、女子美スピリッツを浸透、継承できる内容です。「女子美の教養」では、社会人、アーティストとして将来を歩んでいく際に、教養教育の学びが自身の専攻分野、興味・関心とどのように結びついて社会に活かされるのかを学びます。

・グローバルな多様性社会に必要な知識を身につける【多様性の理解】

的確な情報収集や分析、理論的思考・判断能力を養い、人文、社会、自然科学に関する知識・理解を深めるカリキュラムとなっています。次の3つの科目群から成り立っています。

- ジェンダー研究 ●国際社会と日本・文化 ●自然環境と人間

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

多様性が尊重される社会において、ジェンダー、国際社会と日本、自然環境と人間、芸術について広く学び自己理解をすることで、社会人にふさわしい考え方や幅広い教養を養う科目を配置する。

・美大生としての基礎力・創造力を養う【創造的思考力】

制作や研究に主体的、計画的に取り組む関心・意欲・態度を養います。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

美学、美術史、色彩や図学など、芸術分野における基礎力、芸術的感性を培い、独創性を高めて具現化することのできる創造的思考力・判断力を養う科目を配置する。

・アートを社会と生活に生かす【実践力・マネジメント力】

生涯を通して学ぶ創作、研究（持続可能なアートスキル）への関心・意欲・態度を養い、地域社会への理解を深めるカリキュラムです。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

芸術的理論と技法を活用し、自分の未来像（キャリア）をデザインし、生涯にわたり広く社会に貢献できる主体的な実践力、マネジメント力、協働する力を養う科目を配置する。

・語学力を高め世界で活躍する【表現・コミュニケーション力】

創作や考えを伝える技能・表現・コミュニケーションスキルを身につけます。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

グローバル社会において多様な他者の文化的背景を理解し、自身の創作や考えについての的確に伝えるコミュニケーション能力を養う科目を配置する。

美術コース

ファイン・アート（純粋美術）の領域で、自己表現としてのモノ創りが主体となります。平面と立体の垣根を外し、古典技法から現代的表現まで幅広い学習をします。1年次後期より油彩、版画、日本画、塑造などを選択しながら、自らの表現スタイルの確立に向け模索していきます。

1. 教育の目標

自然から謙虚に学ぶことを根幹に置き、見ることと表現することの素晴らしさを追求します。それによって豊かな感性と確かな表現力を身につけるとともに、創作を通して豊かな情操を育成します。

2. 本分野の特長

平面と立体のジャンルにとらわれない、幅広い表現を経験することができます。課題は多くの選択制を導入し、さまざまな素材と技術、媒材や手段を学ぶことで、それぞれに適した表現を探求します。その上で、個性とオリジナリティを尊重した、様々な表現方法へと発展させます。

3. カリキュラムの概要

造形の基本となる学習を1年次では「美術」、2年次では「絵画」や「彫塑」を学び、見ることと表現することの本質的な意味を知ります。

「造形表現Ⅰ・Ⅱ」（Ⅰは1年次、Ⅱは2年次）では、様々な素材、技術を経験して表現の幅を広げます。また「造形研究Ⅰ、Ⅱ」（Ⅰは1年次、Ⅱは2年次）ではそれぞれの領域での深い追及をしていきます。

この様なかたちで、油彩、日本画、版画、彫塑など、さらに専門化した分野で応用や展開を学習して行きます。

1年後期では絵画、版画、彫塑の基礎を学び、2年前期からは、一つの領域を続けて深く学ぶことや、領域を横断しながら学ぶことができます。「卒業制作」ではこれまでの集大成として、それぞれの専門分野での表現を発展させ、個性やオリジナリティを持った制作に繋げていきます。

デザインコース

デザインとは、社会や人にとって有益なモノ、コト、トキを表現によって創造する活動です。その分野は多岐にわたります。

デザインコースには、「グラフィック」「メディア」「テキスタイル」「プロダクト」の4つの分野があり、そのうちからひとつを選択し学んでいきます。

「グラフィック」は印刷媒体を中心としたヴィジュアルコミュニケーションを、「メディア」は映像・アニメーションをはじめとした多様な媒体表現を、「テキスタイル」は染・織の技術を学びながら暮らしを彩る提案を、「プロダクト」はインテリア雑貨や照明など暮らしを支えるモノづくりを、それぞれの専門分野に特化した知識や技術、表現力を身につけます。

1. 教育の目標

現代社会のさまざまな場面で、思考力や創造性を生かし幅広く活躍できるクリエイターやデザイナーを育成します。

2. 本分野の特長

一人ひとりの個性を大切にし、造形表現の基礎教育および感性を鍛えるトレーニングを積み重ね、既成概念にとらわれない自由な物の見方や発想力を習得します。

3. カリキュラムの概要

デザインの基礎となる観察力や発想力を表現とともに学ぶ「デザイン基礎Ⅰ」、コンピュータソフトの基本的な操作方法を習得する「コンピュータ実習」を全分野共通で学びます。

その後、「グラフィック」「メディア」「テキスタイル」「プロダクト」の4分野に別れ、「デザイン基礎Ⅱ」「デザイン表現Ⅰ」「デザイン表現Ⅱ」「デザイン表現Ⅲ」の実技授業を通して、各分野の造詣を深めるとともに豊かな創造力と表現力を培っていきます。

集大成としての「卒業制作」では、将来を見据えながら、これまでの学びを活かした新たな作品制作に挑戦していきます。